

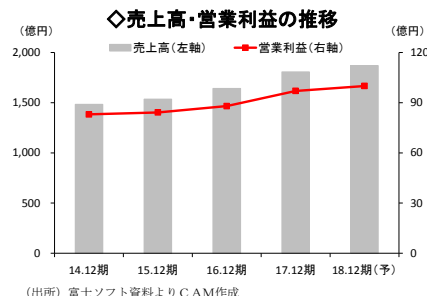
企業ニュース 富士ソフト

(東証1部：9749) <https://www.fsi.co.jp/>

作成者：村上大志

組込系ソフトウェア開発が強み

1970年、設立。機械制御系、自動車関連等に関する組込系・制御系ソフトウェア開発、各業種の業務系ソフトウェア開発、プロダクト・サービス及びシステムの構築・保守・運用サービス等を手掛ける独立系のITサービス企業。新技術への取り組みとして「A I S - CRM (AI、IoT、Security、Cloud、Robot、Mobile&Auto-Motive)」の7分野に注力し、これまで培ってきた技術とソリューションを融合させることで今までない付加価値と新しいビジネスチャンスの創出を目指している。17. 12期の事業別売上高構成比はS I 事業93%、ファシリティ事業 (オフィスビル賃貸) 1%、その他6%。



通期計画に対する上振れ期待は高い

18. 12期・第3四半期累計 (1-9月) の連結業績は売上高が1, 528億円、前年同期比13%増、営業利益が87億円、同28%増。自動車関連・F A (ファクトリーオートメーション) などの機械制御系ソフトウェア開発や、情報通信、金融、製造業向けの業務系ソフトウェア開発が好調だった。営業利益率は5. 7%、同0. 7%ポイント改善。増収効果や不採算案件の抑制、生産性向上による原価率改善が奏功した。S I 事業の受注残高は439億円、同13%増。自動車、金融、製造業向けが順調に積み上がっている。

18. 12期の会社計画は売上高が1, 870億円、前期比3%増、営業利益が100億円、同3%増。通期計画に対する進捗率は売上高が82%、営業利益が87%とともに高水準で推移している。通期計画比110%増のめどが立った時点で上方修正を行うとのことで、通期計画に対する上振れ期待は高い。A D A S (先進運転支援システム) や電気自動車関連等の車載制御ソフトウェア開発が好調に推移することや、F A 向けの開発需要も高水準での推移が見込まれよう。金融分野はデジタルトランスフォーメーションやフィンテックの進展を背景に、システムの刷新やR P A (ロボットによる業務自動化) を活用した業務効率化へのニーズが高まっている。またE C (電子商取引) をはじめとしたネット関連や官公庁系のシステム開発、インフラ基盤の構築も好調である。

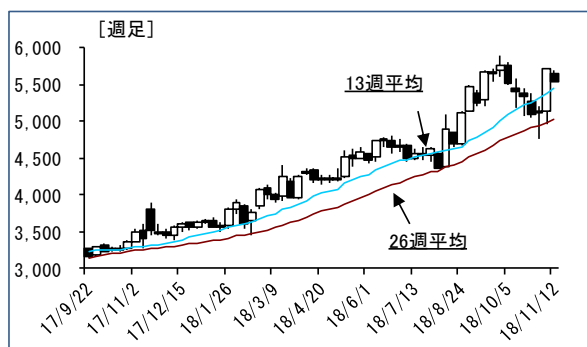
[株価動向・投資判断]

好調な決算の発表で株価は反発した。事業環境は良好で持続的な成長が期待できよう。

<9749 富士ソフト 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
16. 12	164, 218 (7)	8, 798 (5)	9, 166 (1)	5, 042 (2)	161. 6	29. 00
17. 12	180, 773 (10)	9, 707 (10)	10, 260 (12)	5, 797 (15)	185. 3	33. 00
18. 12 予	187, 000 (3)	10, 000 (3)	10, 300 (0)	5, 900 (2)	188. 5	36. 00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価 (2018/11/12)	5, 540 円
年初来高値 (高値日)	5, 900 円 (18/9/26)
同 安値 (安値日)	3, 450 円 (18/2/14)
予想 P E R (18. 12 予)	29. 4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3, 432. 5 円
P B R	1. 61 倍
予想配当利回り	0. 65 %
(1株当たり配当金年36. 00円)	
R O E (17. 12)	5. 8 %
発行済み株式数	3, 370 万株